

要 旨

文学作品の翻訳は日常会話や科学技術資料の翻訳と違って、原作の読者と同じく美的感受を味わえるために、特別な表現方法を用いて、その作品に原作者が言おうとすることを正確に訳文の読者に伝える。特定の言語環境における歴史や文化の影響を受けて、言葉は豊富な連想や特定のイメージを与えられる。すると、文学翻訳の可能性はどこまでであるか、また、どうやって、どこまで等価的に翻訳できるかと一連の問題を考えざるをえないことになる。本論文は三つの部分に分けて、夏目漱石の『吾輩は猫である』の中文訳を例にして、考察した。

初めでは、まず、文学作品翻訳の重要性を論じた。翻訳は文学作品の存在形式の一種である。翻訳は作品に斬新なる面貌を与え、もつと範囲の広い読者と斬新なる交流をさせ、作品の命を延長するばかりでなく、二度目の命をも与えられると言えよう。漱石の作品は一番多く中国語に訳された。こういう訳本があるこそ、夏目漱石の作品が中国人によく知られたのである。そのため、筆者は漱石の処女作『吾輩は猫である』を研究対象にして、文学作品翻訳の重要性、また、漱石の文学作品の翻訳史、特に、『吾輩は猫である』の翻訳史及び文学史における地位の紹介や代表的な訳本を比較しながら、翻訳方法を検討し、翻訳の可能性および限度を考察したのである。

本論では、『吾輩は猫である』翻訳方法について、題名の訳し方、登場人物の名前の翻訳、修辞の翻訳、語音現象の翻訳など四つの方面から、「文内直訳文外補償」、「文内補償」などの訳し方を論じた。そして、翻訳の方法から、文学翻訳の可能性と限度の考察へ導入した。

人類社会の発展の共通性と人類思惟、感情の共通性は各言語の類似性を齎したので、翻訳の可能性もある程度存在してあるといえる。だが、ラングの特性、民族文化、思惟方式の差異性は翻訳の障碍になり、翻訳の不等価性を齎しやすくなる。『吾輩は猫である』の訳者はいつも訳語にさまざまな補正をほどこしながら、言語と文化の不等価性を乗り越えている。それを乗り越えるのに有効な方法を捜すべきだと筆者は例を挙げながら、力説した。

【キーワード】文学翻訳 可能性 限度 等価性

アウトライン

1	初めに	1
1.1	翻訳文学——文学の存在形式の一種	1
1.2	翻訳文学の民族文学における地位	2
1.3	近代文豪としての夏目漱石	3
1.3.1	作家の生涯	3
1.3.2	主な作品	4
1.3.3	魯迅に対する夏目漱石の影響	5
1.4	中国における夏目漱石の文学作品の翻訳状況	6
1.4.1	1949年以前の翻訳状況	6
1.4.2	1949年以降の翻訳状況	6
2	本論	8
2.1	『吾輩は猫である』への評価	8
2.2	『吾輩は猫である』の翻訳史	9
2.3	『吾輩は猫である』の翻訳について	9
2.3.1	『吾輩は猫である』という題名の翻訳	9
2.3.2	登場人物の名前の翻訳	13
2.3.3	修辞の翻訳	17
2.3.3.1	掛詞の翻訳	17
2.3.3.2	比喩の翻訳	20
2.3.3.3	対句の翻訳	22
2.4	語音現象の翻訳	23
2.5	翻訳の可能性とその限度	26
2.5.1	翻訳の可能性	26
2.5.2	翻訳の限度	27
3	結び	29

翻訳の可能性及び限度

——漱石の『吾輩は猫である』の中文訳から

1.初めに

「翻訳の世紀」と呼ばれる二十世紀に入ると、世界各国において翻訳研究は、いままでにない活発な姿を現わした。特に、この時期には、文学作品の翻訳分野においての著しい発展はその一つの大きな特徴である。文学作品の翻訳は日常会話の翻訳や科学技術材料の翻訳と違って、原作の読者と同じく美的な感受を味わえるように特殊な表現方法を用いて、作品に潜んでいる原作者が言おうとすることを正確に訳文の読者に伝えるのである。それでは、翻訳とは何か。「ある言語で表現された文章の内容を他の言語に直すこと」¹であるが、言語は文化の表われであり、また、文化はその国、その民族の知識、経験□価値、態度、階級、宗教などの総合であるので、かなり違っている文化に支えられている言語の転換は容易か、その可能性はどこまでであるかと、人々はずっと昔から研究に研究を重ね、努力してきた。

文学作品の翻訳も同じように、違う文化が潜んでいる文学の相互転換はそんなに容易なことではないから□その訳本に新しい生命力を与えるのに随分な工夫と研究が必要である。いままで、中国に外国の優秀な文学作品が沢山受け入れられ、幾代の人々に大いに影響を与えていることは翻訳者の努力によるほかはない。

1.1 翻訳文学——文学作品の存在形式の一種

人類の文明歴史を振り返ってみると、各民族の優れた文学作品は翻訳のおかげで、世界の人々によく知られ、受け入れられたのである。翻訳文学は原作品をもとにして、生まれた作品で、派生作品とも言える、原作品に属しながら、原作品と異なる新しい作品でもある。ギリシヤの最古最大の叙事詩人であったホーマーの作品——

¹ 新村出 編集 「広辞苑」 岩波書店 1998年11月第五版 P2487。

『イリアス』『オデュッセイア』とアリストテレス (Aristotle) の作品などは世界で、高い評価を受けているが、「死んだ言語」——ラテン語で書かれたものである。もし、英語版など他の訳本がなければ、これらの世界文化遺産は誰にも知られないままになっていただろう。このような状況は非通用言語の文学においてはもつと目立つ。ポーランド語で創作に携わったシエンキエーヴィチ (H.Sienkiewicz)、イディッシュ語 (Yiddish) で小説を書いたアメリカの作家シンガー (Isaac Bashevis Singer)、スペイン語で『百年の孤独』を出版したコロンビア作家マルケス (Marquez) たちは、もし彼らの作品がただ原作だけであるとしたら、作品は今のようには世界の人々に知られ、世界文学の桂冠を手に入れることはなかったろう²。

実は、今日に至って、訳本という形式で存在し、または、流伝しているため、ますます多くの文学経典と思われる文学作品が人々に鑑賞され、評価されているのである。ギリシヤの文学作品がそうである、非通用言語の文学作家の作品もそうである。また、イブセン (Ibsen) の劇、アンダーソン (Anderson) の童話もそうである。フランス社会学者である Escarpit (埃斯卡皮) が言った通り、「翻訳は作品に斬新なる面貌を与え、もつと広い範囲読者と斬新なる交流をさせる」、「作品の命を延長するばかりでなく、二度目の命をも与える」³のである。

1.2 翻訳文学の民族文学における地位

世界各国の文学史を見れば、翻訳文学が重要な位置を占めていることはもう公認されたのである。翻訳文学が最初の書面文学である国家も少なくない。ロシアの偉大なる文学者チェルヌイシエフスキー (Chernyshevskiy) がプーシキン (Pushkin) の前に翻訳文学は実は創作より重要である⁴と語ったことがある。

よく中国の文学作品が外国文学に影響されていると言われているが、中国近代文学発展史において、直接に外国作家と付き合い、または外国に留学のため、外国文学の影響を受けたというような作家はやはり少数である。バイロンであれ、シエリーであれ、ヒューゴであれ、バルザックであれ、プーシキンであれ、彼らは中国文

² 謝天振 《訳介学》 上海外語教育出版社 1999年2月版 P214。

³ 謝天振 《訳介学》 上海外語教育出版社 1999年2月版 P213。

⁴ 謝天振 《訳介学》 上海外語教育出版社 1999年2月版 P244。

学に巨大な影響を与え、中国読者の心に重要な位置を占めている。その主な原因は彼らの作品の訳本にある。有名な詩人辛笛は文学生涯を回顧して、「魯迅の訳作及び周作人と合訳したものはほとんど読み通した。これらの訳作を通して日本やロシア及び東ヨーロッパの作品を読んだ」と語った。

外国でもそうである。バイロン(Byron)はゲーテ(Goethe)の『ファウスト』(Faustus)から影響を受けていたとされているが、実はドイツ語が分からなかった彼はスタイルス(Stiles)のフランス語訳本を通して、『ファウスト』(Faustus)を知ったのである。

つまり、アメリカの著名な詩人——パウンド(Pound)が言ったように「文学は翻訳から生命力を獲得……如何なる新しいもの、如何なる復興は翻訳からはじまる」⁵のである。

1.3 近代文豪の夏目漱石

中国には日本の名作が翻訳により取り入れられ、人々に知られている。その中に近代文豪と称されている夏目漱石の作品がある。

1.3.1 作家の生涯

日本の有名な文学者である三好行雄は、森鷗外と並んで“近代文豪”と称された漱石に対して、こういうふうの評価した。「(漱石は) 余裕派、俳諧派、高踏派などと色々と呼ばれているが、どれをとっても、漱石の全貌をおおうには至らない。彼自身、作風に変化があり、また、一つの言葉で代表するには、彼はあまりに大きいのである。」⁶

漱石の作家的生涯はしばしば三期に区分して考えられる。前期は漱石の心に□現実への不満と反抗が燃え、だからこそ現実を超えた美の世界を内に思い描いた時期である□明治日本のあわただしい開花に必然的にまつわった皮相浅薄に怒りつつ、漱石は現実への目を閉ざして現実の向こうに自分の生きる基盤を求めようとした。しかし、人間の住むべき場は結局現実社会においてどこにもないと悟った時、漱石の第

⁵ 謝天振 《訳介学》 上海外語教育出版社 1999年2月版 P254。

⁶ 三好行雄 『近代日本文学史』明治書院 昭和52年 P220。

二時期が始まる。その時、漱石は不満と反抗とを自分の現実の生の中に閉じ込める
ほかはなかった。外との戦いは、次第に内との戦いになる。そこには、美の世界
の介在を許す余地は多く残されてはいなかった。第三時期は□修善寺の大患を契機と
して始まる。皮相浅薄と断じ去った世の中がかえって温かい心□親切な人々の世界と
映り始める。漱石はそこに自然と人間との静かな調和を見た。美の世界の復活であ
った。

また、漱石の周辺は次第にその文学と人格とに引かれて参集する人で賑わってい
た。漱石は多くの優れた弟子にも恵まれ□毎週木曜日を面会日として自宅(漱石山房)
を開放した。このいわゆる木曜日会では□時代思想や文学についての活発な論議が応
酬され、鈴木三重吉、森田草平、野上彌生子、寺田寅彦、内田百閒らの小説家や随
筆家、安倍能成、和辻哲郎の思想家、評論家が育った。その後、彼らは大正文化を
推進した知的リーダーの一角になった。芥川龍之介、久米正雄□松岡譲らも木曜日に
参加した、龍之介は最晩年の愛弟子として遇され、漱石の推薦によって文壇に出た。
漱石文学の知性と虚構の方法を短編で継承した小説家である。1911年、日本政府は
夏目漱石の声望を配慮して、「文学博士」の称号を授与しようとしたが、漱石に拒否
された。⁷

1.3.2 主な作品

漱石は明治三十八年『ホトトギス』に『吾輩は猫である』を発表して一躍有名に
なり、次に発表した『坊ちゃん』とあいまって、そのさわやかなユーモアと洒落な
風刺で文才を示した。次いで『草枕』を発表したが、ここには現実嫌悪から来る逃
避的な超俗的なところが見られる。イギリス留学時代の経験をもとにして、東大で
講義された『文学論』のほか、文筆活動に携わってから『虞美人草』、『三四郎』、『そ
れから』、『門』を創作した。その中で、『三四郎』、『それから』、『門』は「前期三部
作」とされている。さらに、修善寺の大病の後の『彼岸過迄』、『行人』、『心』、『道
草』、『明暗』など□きわめて密度の高い仕事をなした。『彼岸過迄』、『行人』、『心』
は「後期三部作」と言われている。漱石の全部の作品に接すると、日本近代文明の

⁷ 劉振瀛 《日本文学論集》北京大学出版社 1999年版 P189。

批評者としての面目が作品のいたるところに見られる。

漱石は、日本文学史の最高峰に位置付けられる文学者であり、彼の影響は彼の追求した問題とともに、現在に至るまできわめて大きい。

1.3.3 魯迅に対する夏目漱石の影響

わが国の文学者である魯迅が医学をやめ、文壇に出た時は、ちょうど日本の自然主義文学が当代文壇の主座を占めた時期に当たった。彼は自然主義文学に興味を感じなかったのは、自然主義文学の「排理想」や「現実暴露の悲哀」などの主張や作品に現れた宿命観と虚無観に飽き足りなかつたからであろう。魯迅は『どんなきつかけで小説を書き始めたのか』(『我怎么做起小说来』)という文章の中には「その時、もつとも好きな作家はロシアのゴーゴリ(N.Gogol)、ポーランドのシエンキエーヴィチ(H.Sienkiewicz)、日本の夏目漱石と森鷗外である」と書いた。

周作人は『魯迅について』(『关于魯迅之二』)の中にも、「魯迅はその時(留学時期)日本文学にあまり興味を示さなかつた。...でも、その時、夏目漱石の俳諧小説『吾輩は猫である』はとても有名で、豫才(魯迅の号)は漱石の作品の単行本が出版される度に、必ず買う。彼も『朝日新聞』に連載された『虞美人草』を興味深く読んだが、島崎藤村などの作品にはちつとも目も向けない。...その後、豫才の書いた小説の風格は漱石のと違つてゐるが、巧みに風刺と嘲笑を生かす風格は実に漱石から相当の影響を受けた。(筆者訳)」⁸と書いた。魯迅は『現代日本小説集』の中国語訳本に漱石の作品を「輕妙洒脱、富于機智」と賞賛したことがある。

1.4 中国における夏目漱石の文学作品の翻訳状況

1.4.1 1949年以前の翻訳状況

⁸ 劉振瀛《日本文学論集》 北京大学出版社 P194。「魯迅当时(日本留学时期)对日本文学没有注意。……不过,由于夏目漱石的俳谐小说《我是猫》很有名,豫才(魯迅的号)每逢漱石的作品单行本一出版,总要接二连三地买了来读,他也曾认真阅读过连载在《朝日新闻》上的《虞美人草》,而对于岛崎藤村等人的作品,根本就未予注意……以后豫才写的小说,虽不同于漱石的风格,但那种寓讽刺与嘲笑于轻妙笔致之中的风格,实际受到漱石相当影响。」

日本現代作家の作品は別として、近代作家の中で漱石の作品は沢山中国語訳されている。20世紀20年代から90年代の末まで、夏目漱石の作品は中国では33種類の訳本があつて、数多くの読者を有している、中国文学には一定の影響を与えた。

もつとも早い時に訳出されたのは1923年出版の『日本小説集』である。その中に魯迅が漱石の『永日小品』のなかの二篇——『クレイグ先生』と『懸物』を訳出した。これを皮切りに漱石の初期に属する作品が多くの訳者によって訳された。1932年、上海開明書店は章克标が訳した夏目漱石の著作選集を出版した。これは初めての夏目漱石の著作選集である。中には、中篇小説『坊ちゃん』□短編小説『倫敦塔』『鶏頭序』を収録した。同時期に漱石の作品を翻訳する訳者には崔万秋がいた。1929年、崔万秋は『草枕』を訳出して、上海真善美書店によって、出版された。1934年に『夢十夜』、1935年に『三四郎』があいついで訳出された。

1.4.2 1949年以降の翻訳状況

新中国成立後、漱石作品の中国語の訳出は、1958年をもって嚆矢とする。すでに出版されたものは今のところおよそ次のとおりとなった。

年次	書名	訳者	出版社
1958年	『夏目漱石選集』 (『吾輩は猫である』、 『坊っちゃん』、 『草枕』)	胡雪、尤炳圻 訳 豊子愷 訳	人民文学出版社
1982年	『三四郎』(単行本) 『三四郎』 『それから』(単行本)	陳徳文 訳 呉樹文 訳 陳徳文 訳	湖南人民出版社 上海訳文出版社 湖南人民出版社

1983年	『こころ』	周炎輝 訳	瀋江出版社
1984年	『夏目漱石小説集』(上巻) (『三四郎』 『それから』 『門』)	陳徳文 訳	湖南人民出版社
1985年	『夏目漱石小説選』(下巻) (『彼岸過迄』、『行人』、『こころ』)	張正立、趙徳遠、 李致中 訳	湖南人民出版社
1985年	『それから』 『三四郎』 『門』 『道草』	呉樹文 訳 何毅文 訳	上海訳文出版社

漱石の作品(特に小説)はほとんど中国語に訳された、ただ、長篇小説である『虞美人草』のような翻訳しにくい作品はまだ訳されていない。

このように夏目漱石が日本文壇において特別な地位にある。また、中国文学界に大きな影響を与えたという点は筆者に漱石の作品及びその翻訳技巧の研究に興味をわき立たせたのである。

本論は夏目漱石の処女作『吾輩は猫である』の中国においての訳本紹介とその主要な翻訳の方法の比較から翻訳可能性及び限度を論じようと思う。

2.本論

2.1 『吾輩は猫である』への評価

自然主義が文壇の主流を占めようとしていた時点において、漱石の作風はむしろその対極に位置した態度、作風であった。文壇は世間一般に比して漱石には冷たかった。ほぼ、処女作『吾輩は猫である』の時代と重なる明治三十八、九年の時期、漱石はしばしば「余裕派」と呼ばれ、その作風が「低回趣味」と目されたこともあった。「余裕小説なるものは極めて曖昧なものである。もし強いて定れば、猫が噓をしたようなつまらないものだ。」これは、自然派の評論家長谷川天溪の断定であった。⁹その他、『猫』の発表と同時代の批評には、「高等落語」という評言もあれば、「文明的膝栗毛」という評言もあった。また、高尚で上品なところは、従来滑稽物に比して、一頭地を抜いているが、「滑稽物としては滑稽足らず、風刺とすれば、風刺きわめて小也」¹⁰というような批評もある。明治三十九年九月号の『帝国文学』に漱石の『猫』を評する文章が載せられ、中に、「由来漱石氏の特長は独得の感想を拘束するところなく恣に描き去るにあり。ゆえに警抜の語句相接し人を応探に違なからしむ奇文の傍に、往々余りに放肆にすぎて注意の統一を破り何となく冗長の感あらしむる文辞なきに非き」と書いてある。¹¹「その斬新な奇警な観察と鋭利な風刺との点において、今のところ他に類のない新方面の開拓者たる名誉を担うことができよう」といった賛辞も見られる。

実際には、『猫』のような風刺と嘲笑が溢れる作品は、日本近代文学史上においても優れたものであり、これと匹敵できる作品は、後に出た芥川龍之介の『河童』しかない。しかし、実際、『河童』は『猫』からヒントをもらって書かれた小説だとい

⁹ 日本近代文学大系 25 『夏目漱石集Ⅱ』角川書店 平成5年 P42。

¹⁰ 日本近代文学大系 25 『夏目漱石集Ⅱ』角川書店 平成5年 P27。

¹¹ 日本近代文学大系 25 『夏目漱石集Ⅱ』角川書店 平成5年 P503。

2.2 『吾輩は猫である』とその翻訳状況

『吾輩は猫である』は明治三十八年一月から三十九年八月までの間に、十回にわたって『ホトトギス』に連載された漱石の処女作であった。この作品は日本の近代文学においては例の少ない、自由奔放な笑いの文学となっている。その魅力はなんといっても、物言わぬ猫が人間を観察し、批評し、風刺するという趣向のおもしろさにある。人間にとってはごく当たり前の習慣や風俗であつても、それになじまぬ猫の目にはもの新しく、また珍奇に見えるはずである。漱石はそれを利用して、人間生活の矛盾や滑稽さを拡大し、デフォルメして描いている。漱石の漢詩文の愛好は作品の中にもこの特色が強く出ている。漢語の語彙や漢文調的表現が実に縦横自在に駆使され漢語の持つ響きや重々しさが十分に生かされて誇張や反語的效果をうまく上げている。この作を書くに当たって意識的に文体の長所を取り入れ漢語と俚語、それに外来語までうまく混淆させて、一つのまとまった作家独自の風格をつくりあげた。そのほか、大量的に反語を使うことはこの作品の突出の表現方法である。でも、この滑稽的、風刺的風格が翻訳上には、多大の困難をもたらした。

『吾輩は猫である』は魯迅や周作人などに高く評価されたが、前に言ったように翻訳には難しく、文章が長すぎるので、中国訳本はほかの作品よりずっと遅れた。

2、30年代において、正式の中国語訳本があるかどうか疑われている。

80年代に、東北師範大学外国問題研究所によって出版された『五四運動以来日本文学研究与翻訳目録』という本に程伯軒の訳した『吾輩は猫である』が初めての訳本であると記してある。でも、外の目録にこの訳本を記していない。1958年、人民文学出版社は二巻の『夏目漱石選集』を出版した、『吾輩は猫である』は第一巻に収められている。90年代になると二種の新しい中国語訳が現われた。一つは93年に南京訳林出版社によって出版された于雷の訳本である。もう一つは94年に上海訳文

¹² 何乃英 《夏目漱石和他的小说》 北京出版社 1985年版 P60。

出版社の出版した劉振瀛の訳本である。

2.3 『吾輩は猫である』の翻訳について

2.3.1 『吾輩は猫である』という題名の翻訳

次は、劉振瀛と于雷の訳本を比較しながら、その翻訳効果から翻訳の可能性を検討してみよう。

はじめに自明のように見える『吾輩は猫である』という題名について考えてみたい。「吾輩は猫である。名前はまだない」という書き出しで分かるように、吾輩は語り手であり、猫である。その書き出しは読者に新鮮な驚きを与えたとともに、訳者に翻訳上の困難を齎した。漱石の時代は今日と同じく、第一人称が甚だしく多い。例えば、わたくし、わたし、あたし、おれ、ぼくなどある。これらの一人称代名詞は殆ど『吾輩は猫である』に見られる。でも、漱石はどのようにして主人公の「猫」に「吾輩」を使わせたのかということ、もちろん、作家の意図があつたからである。「語り手である猫はいきなり「吾輩は……」と偉そうにいい、髭をひねり上げることによって、ヨソモノ宣言をしたのだ。…人間のヨソモノである猫が喋っているのだということを読者が意識すればするほど作品の滑稽味と厚味は増すであろう。と漱石は計算したにちがいない」¹³。

周作人は1936年に『我是猫』という文章で、「『吾輩は猫である』という書名は、中国語に訳せば『我是猫』という訳しかないみたい。英語に訳した場合も、『I am a Cat』と訳した。だから、『我是猫』という訳は間違っているとは言えないが、原文と比べて、何となく意味が薄れている感じがする。(筆者訳)」¹⁴と書いてある。日本の有名な言語学者である金田一春彦はイギリスのG.ウイルソンの『I am a Cat』という訳について「これでは原文のおもしろみの十分の一も伝わらない」と言った。¹⁵では、原因はどこか。

まず、「吾輩」の意味から考察しよう。

¹³ 劉徳有 《〈吾輩は猫である〉与〈我是猫〉》 《日語學習与研究》1990年2月 P25。

¹⁴ 周作人 《苦竹雜記》河北教育出版社 2002年1月 P178 “《我是猫》这个书名，从汉文上说，只有这一个译法，英文也是译为 I am a Cat, 所以不能算不对，然而与原文比较，总觉得很有点失掉了神采。”

¹⁵ 劉徳有 《〈吾輩は猫である〉与〈我是猫〉》 《日語學習与研究》 1990年2月 P25。

*わがはい [我が輩 吾が輩] 【代名】自称

① [われわれ]の意で男が用いた。われら

② ①から転じて単数に用いる。われ、私。(小学館『国語大辞典』、1982年版)

*わがはい [我(が)輩.吾(が)輩] 【代】第一人称の代名詞。イ) わし、われ。余。

△ 現在では尊大な言い方。ロ) われわれ。(岩波書店『岩波国語辞典』、1963年版)

*わがはい [我が輩 吾が輩] 【代】(男性が使う言葉) ①私。自分。②われら、自分たち。(旺文社『標準語辞典』改訂版、1973年版)

*わがはい [我が輩] (代)《尊大の意をふくむ自称》①われわれ。われら。②自分。おれ。(講談社《国語辞典》新版、1982年版)

*わがはい [我が輩][吾輩]【代】①[文章語]われわれ。②自分。【用法】今はふざけた場合にしか使わない。(小学館『新選国語辞典』新版、1981年版)

*わがはい [我輩 吾輩]【代】成年の男子の用いる自称の代名詞。自分。[古風で格式張った語。話し言葉でも現在は普通には使わない](中教出版株式会社『例解国語辞典』、1965年版)

まとめて見ると、「吾輩」の意味は以下のようである。

①、第一人称の複数と単数として使われる。

②、成年男子だけ使っている。

③、尊大の意を含む。

④、今日には、使わない。使うとすれば、冗談の場合に限られる。

『吾輩は猫である』の「吾輩」はただ一語だけを通して、この猫の自大さをいきいきと描き出した。でも、中国語の「我」はこのような微妙な口調が伝えられない。でも、もしそのまま中国語の「吾輩」「我輩」を借りて訳すとすれば、それもいけな

い。なぜかと言えば、中国語の「我輩」「吾輩」は複数の意味しか持たない、日本語の「吾輩」の語義範囲より狭いからである。然し、「書名について今までの日本文学史に、甚だしきは『簡明イギリス百科全書』にも、書名を『我是猫』と記載している。この書名は、もう世界中に広く認められているから、決まった訳として二度と変えてはよくないと思う¹⁶。」と于雷は『訳者前言』でこう書いている。だから、二人の訳者とも書名を『我是猫』にした。

次は、冒頭句から、劉振瀛と于雷の訳を見よう。

例1: 吾輩は猫である。名前はまだない。

劉訳: 我是只猫儿。要说名字嘛, 至今还没有。

于訳: 咱(zǎ)家是猫。名字嘛……还没有。

劉訳と于訳との最大の区別は「吾輩」の訳し方にあると言える。

于雷は「吾輩」を「咱家」と訳した。この理由として、「訳者前言」で、彼は「「吾輩」という言葉は日本古代に老臣が新帝に対しての謙遜な言い方でありながら、謙遜の中に傲慢な意も含まれている。わが国の宦官の自称する「咱家」に似ている。明治前後、「吾輩」は庶民によく使われていて、中国の講談(評書)に出た「在下」、孫悟空のよく言っている「俺老孫」、自慢を表す「咱」「老敞」とよく似ている。……だから、何回も訳文を修正した。……劉徳友と冷鉄铮が『吾輩は猫である』という小説の題名について学術的論文を発表してから、「咱家」に決まった。もちろん、それは、主人公の猫の心境と小説の風格によつたものだが、「吾輩」は、必ずしも「咱家」しかと訳せないとは限らない。¹⁷」と書いてある。「「咱家是猫」は「我是猫」より意味深く、より一層生き生きとしている。しかも、次のセンテンスには、原文にない省略点を付け加えた、それは、まだ名前がないことによつてもたらした「照れくささ」を強めた」¹⁸。

劉振瀛は「吾輩」を「我」と訳した、ざっと見れば、新奇なところがないようであるが、分析してみれば、作品を深く理解した作者の感想が入っている。「我是只猫

¹⁶ 于雷 《我是猫》 訳林世界文学名著(全訳本) 訳者前言 2000年版 P1。

¹⁷ 于雷 《我是猫》 訳者前言 訳林世界文学名著(全訳本) 2000年版 P1。

¹⁸ 王向遠「八十多年来中国对夏目漱石的翻译、评论、研究」 《日語学习与研究》2001年4月号 P43。

儿」は、「只」という猫を数える助数詞を使うことによつて、人間を数える助数詞「个」と分けて、猫が人間に成りたくない傲慢な口ぶりを表した、それに、「猫」ではなく、「猫儿」と訳し、原文の滑稽さとユーモアを躍如として伝えた。「要说名字嘛，至今还没有」というセンテンスは、「要说……嘛」には、ささやかな転折とためらいを含んでいる、これは、「名前がまだない」ことにたいしての不満足感とコンプレックスを表した。¹⁹

劉振瀛の訳文はあまつた言葉なく、簡潔な訳語で微妙な意味を伝えた。「咱家」は「我」より訳文の風刺とユーモアの効果を強めるかもしれないが、いかなる「吾輩」も「咱家」に訳せるとは限らない。

例えば、原作に頻繁に「吾輩の主人」というような「吾輩」の後に修飾言葉がついている場合、中国語の「咱家的……」と訳し、一体、「咱(zā)家的」であるか、「咱(zān)家的」であるか、違った意味が生じかねない。実際には、于雷はこんな所を訳す時に、「我」と訳さざるをえなかったのである。

2.3.2 登場人物の名前の翻訳

もともと、名前の翻訳は、特に取り上げて討論する必要はないようであるが。しかし、文学作品に出る名前は例外である。作家は自分の創作意図によつて、人物の性格、運命および作品の背景、結末を呈示するために、少なくとも主人公に特別の意味を含む名をつける。それは、決して勝手につけるのではない。

作品に出る人物の名前には、性格を表すのがあるし、人物へのイメージを展示するのがあるし、人物の運命を暗示するものもある。よく意図を含んだ似た言葉で、人物に名をつけることを通じて、読者に連想をさせる。知恵のある人であろうか、愚かしい人であろうか、善良な人であろうか、名前だけをみれば大体分かる。

中国の偉大なる文学作家である曹雪芹は、この面においては特に用心深いと言えよう。彼は掛詞を利用して名前をつける。例えば、贾宝玉は「假宝玉」で、偽の宝石と、甄英莲は「真应怜」で本当に可哀相と、卜世仁は「不是人」で、人間ではな

¹⁹ 王向远「八十多年来中国对夏目漱石的翻译、评论和研究」 《日語学习与研究》2001年4月号 P40。

いと言う意味である。その他、四人姉妹である「元、迎、探、惜」春の組み合わせは、「原应叹息」の掛詞で、「嘆息すべし」という意味である。²⁰

『吾輩は猫である』に出た人物の名前にも作家の意図が潜んでいる。小説の登場人物が作者の分身というのは当然であるが、この場合はもつと意図的な意味を持っていると思える。唐木順三は『猫』の人物の名付け方はまるで嘗ての「家族合わせ」にあったような名前、その名前によって、立所にその人物が分かるようだと批評しているが、『猫』の命名法の大部分は名が体をあらわす、それらしい名による効果をねらったものである。確かに、名は体を表すというように、珍野苦沙彌という名前だけで、苦虫をかみつぶし、当人は深刻ぶった顔をしているが、なんとなく他からみれば一一不美人を狃くしゃと形容する連想もあつて一一滑稽であり、笑いを誘う風貌がうかびあがる。そのほか、クシヤミは「くさめ」に通じ、娑婆苦をも連想させる。

こういうような豊富な連想をさせる名前は中国語に訳された時、中国語の読者にも同じ連想をさせるのであろうか。日本語の「クシヤミ」は漢字で「苦沙彌」と書くので、中国語に訳されたとき、劉と于ともそのまま「苦沙彌」と訳した。形式的にいえば、同じであるが、訳文には、同じぐらいの働きを果たしたかと疑いがある。「苦沙彌」は中国の読者にとって、日本人のごく普通の名前と思われる恐れがあるので、作者の苦心が了解できるはずがない。

また、『吾輩は猫である』には、金権主義者の成金である金田夫婦を描写した。もし、漱石は苦沙彌、迷亭などのプチブルには皮肉を言いながら、深い同情をも持っているとする、無教養な成金に対しては、彼は憎悪を抱き、ひどく皮肉っている。

漱石滞英中の『断片』中に、「金あるものの多数は無学無智野鄙なる事、その結果愚なるもの無教育なるもの礼するに足らざるもの不徳義のものをも士大夫の社会に入れたること」といった、成り上がりの金権主義者への鋭い批判がみられる、金田は無学無智野鄙な実業家の典型であろう。」²¹その嫌悪感はまず名付け方に現れた。実業家の細君は「金田鼻子」と名づけられたことは作者の特別の意図である。金田

²⁰ 包惠南 《文化语境与语言翻译》 中国对外翻译出版社 2001 年版 P74。

²¹ 日本近代文学大系 24 『夏目漱石集 I』角川書店 平成 5 年 P498。

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

厦门大学博硕士论文摘要库